



## 誰かの役に立つものが 下町から生まれると思うと、 ワクワクします。

株式会社アイエスゲート 鈴木 菜月さん

### 株式会社アイエスゲート

金融機関や官公庁の基幹システム開発、情報系システムの開発と運用保守等を行うソフトウェア開発事業で実績を重ねてきました。中でも、創業以来一貫して、外国人や障害を抱えた方などに向けた「医療機関向けのコミュニケーション支援システム」の開発に注力しています。また、環境事業として、人と地球環境に配慮した製品の販売も手掛けています。

代表者名：小林 俊哉

住所：〒131-0045 墨田区押上2-20-2 401号

社員数：5名(うち女性2名)※平成30年8月末現在

設立年：平成17年3月

電話：03-5879-4527

ホームページ：<http://www.isgate.co.jp>

— 転職されたきっかけについて  
教えてください。

3年半前に入社する前は、あるクリニックの受付をしていました。医療関係の会社に憧れがあり、人と接する仕事が好きだったので充実していたのですが、勤務時間の長さから続けるのが難しく、転職を考えるようになりました。

当時住んでいた千葉県から通える範囲内で、医療関係の仕事をしたいという思いがありました。アルバイトで友人と会う機会が多かったので、休みを合わせやすい日休みの会社だと思い、私も思っていました(笑)。今は残業もほとんどないですし、家から通いやすいのはやっぱりいいです。

— 今どんなお仕事をしていますか？

当社の主な業務は、独自性のあるソフトウェア開発なのですが、特に注力してきたのは、医療機関向けのコミュニケーションを支援するシステム開発です。私も、社内の事務業務とともにシステム開発のサポートをしています。

当社が開発した「ヘルスライフサポート」は、外国人の方が受診する際のコミュニケーションを易くする医療問診支援システムです。数年前から、日本での医療検診プログラムに組み込んだ「医療ソリューション」が

盛り上がりしましたが、クリニック側もまたまった数の海外受診者を受け入れる経験は少なく、言葉の壁もあって双方とも負担を感じていました。私たちは、そんな状況を改善するための多言語システムを開発し、自身はデータの整理や入力でサポートしました。

それ以外にも、年に数回さまざまな展示会に参加していて、会場での製品説明なども行っています。

— 入社してみてどうでしたか？

わからないことはいつでも聞けますし、自分の意見を言っても雰囲気がありません。私のいるオフィスは人数が少ないこともあって部門の縦割りがなく、全員でカバーし合っていて助けています。あと、会社の方針でセ



ミナや研修に参加する機会が増えていて、外部の方とのつながりができています。自社に閉じこもっていると、煮詰まってしまうこともありまよ。そんなとき、外部の同年代の方と会えるのが心強いです。自分たちとは違う環境の方と話せると学びも多いです。

— どんなことを心がけて  
仕事をしていますか？

私のつくったデータベースが間違っているとシステムが不完全なものになってしまうので、時々息抜きをしながら、緊張感を持って仕事に向かうようにしています。あと、展示会等でお客様に製品の説明をするときは、情景を思い浮かべてもらえるように話すこ

とを心がけています。胃のX線検査に使うシステムであれば「バリウム検査を受けた」とはありますが、「質問します」「そういえば、隣の部屋から「横を向いて」とか「そこで息を止めて」とか音声でいろいろ指示されていたな」と思い出してもらえると、どんなときもどんな風に役立つシステムなのかを理解してもらいやすくなるかなと思っています。

— これから手がけたい  
仕事はありますか？

私が、医療に関わる会社で働きたかった理由のひとつに「人の役に立つものをつくりたい」という思いがあります。当社で働き始めて、自分が苦勞なくできることも、外国の方や障がいを抱えている方にとってはどれだけ大変ということに気付かされました。私たちは、あらゆる人を助けるものをつくれなにかもしませんが、地味に手が届かないかどうか？見過ごされがちな小さな悩みを解決できるシステムを生み出したいと思っています。だからこそ、バリアフリー関連の展示会に積極的に参加して、来場者の困りごとに直接耳を傾けることで、製品開発につなげたいという思いがあります。今まで世の中になかったものが墨田区の下町から生まれたら楽しいし、それが人の役に立つものならさらにうれしいです。

### Boss's Voice 小林 祐基さん



鈴木さんにはシステムの根幹であるデータベース作りをお願いしていますが、集中して取り組んでくれて助かっています。その他にも、システムの説明動画に音声を入れてくれたり、展示会ではバイヤーさんに商品の説明を熱心してくれたり、事務作業を超えた仕事も担ってくれています。

システムの開発は、プログラミングの技術だけでは完全に至りま

せん。実際使ってみて、どこに不便を感じるのか、改善点はないかと細やかな視点でチェックしなければいけないので、当社は女性の採用に積極的に取り組んできました。在宅ワークも検討しています。

しかし、開発したシステムの普及が進まないことでやりがいを感じられず、一時期、離職率が高くなったんです。会社としては、システムの受注を拡大させるため、胃のX線検査支援システム「e-検査ナビ」を東京都のトライアル発注認定制度に応募し、無事採択が決まりました。都内の医療機関で利用いただける、きっかけになると考えています。

がんは国民病といわれていますが、がん検診の受診率はまだ50%にも届いていません。私たちのシステムは、検診の受診率を上げるサポートができると思います。さらに、2016年には「障害者差別解消法」が施行されました。障がいの有無に関わらず検診を受けられる状況を生み出せるのは、私たちだけだと思いで仕事をしています。